

芦安中学校後期自己評価書

平成31年1月23日
南アルプス市立芦安中学校

1 後期自己評価の経過

- (1) 教職員及び生徒対象アンケート（1月）・保護者対象アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月）

本年度は、小中一貫校への移行の観点から、基本的に芦安小学校との共通質問項目で実施した。

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 学校運営・学校経営

〔達成状況〕全体としては、良好な状態にあるといえるが、PDCAサイクルの活用により、計画的・継続的な取り組みにおいてもさらに充実した教育活動を展開していくために、実態をふまえた創造的・発展的な意見が出るように会議や打合わせを綿密にしていくとともに、「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図っていく必要がある。

〔改善策〕各分掌の職員同士が連携を取りながら、学校運営にあたっていく協働体制の構築により、相互補完しながら学校全体で取り組む意識をさらに高めていく。小規模校ならではの利点を最大限に生かせるように工夫していき、小中一貫校に向けた取り組みも含め、教育活動が常に全職員の共通理解のもとに進められるように、相互の信頼関係にもとづいた教育活動を展開していく。

(2) 学習指導

〔達成状況〕授業の「楽しさ」「わかりやすさ」が十分ではない面がある。「思考」「判断」「表現」の場を適切に設定するなど、主体的・対話的な学びが、より深い学びとなるように授業の改善を図る必要がある。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」に課題がある。

〔改善策〕「主体的・対話的で深い学びとは何か」を意識した授業の工夫および改善が、組織的な研究により進みつつあるのでさらに推進していく。また、家庭学習の習慣化については、授業と家庭学習の有機的な結びつき、質・量を検討し、保護者との連携を図っていく。

(3) 生徒指導

〔達成状況〕概ね良好な状態ではある。教師からの働きかけに対し、生徒はその変化を感じていることが数値として表れている。ただし、生徒・教師間および生徒間でのより確かな信頼関係の構築や相談しやすい雰囲気づくりをしていくことが必要である。

〔改善策〕生徒の小さな変化を見逃さないなど、生徒理解に努め、教師の指導と生徒の変容の面からしっかり見取り、効果的な指導について教職員が共有する。生徒自身が自分（たち）の生活の向上のために「何をどうすべきか」を考える機会と実践していく機会を保障していく。「よりよく変わるために学び続けている」姿勢を教職員自身が言動で示していく。

(4) 保護者・地域との連携

〔達成状況〕「奉仕作業」「学校林整備」「白峰祭（学園祭）」「芦安文化祭」等，保護者の全面的な理解と協力によりPTA活動を行うことができた。新たな取り組みとして「芦安文化祭」における太鼓演奏・学年合唱を取り入れた。太鼓については，継続した取り組みにより山人会賞をいただきことができた。また，「学校林整備」の間伐材を利用して，3年生への卒業記念品となる『輪かんじき』をつくりあげることができた。さらに，地域有志からの依頼により『アマゴ放流プロジェクト』へ協力し，学習会で開発による自然環境への影響や地域の方々の熱い思いを知った上で，実際に放流するという貴重な体験ができた。昨年度から地域で取り組み始めた『輪かんじきづくり』『アマゴ放流プロジェクト』を，学校での教育活動において生かすことができた意義は大きいと考える。

〔改善策〕今後も，保護者・芦安ファンクラブ・地域おこし協力隊をはじめ，多くの地域の方々の支援に感謝しながら，本校の特色を生かした達成感や成就感が実感できる活動を継続して行い，新たな伝統へとつなげていきたい。新たな取り組みを行う際の時間確保については，教育課程編成上の見直しも含めて対応を検討していく。

(5) 学校の特色ある取り組み

〔達成状況〕地域人材の活用がある項目の評価がきわめて高く，その有用性を再認識する一方で，生活に密着した日常的な活動に関しては課題を残している。

〔改善策〕日常の学校生活において自治の意識を高めながら，活動の充実を図ることが生徒のさらなる成長へとつながることを意識して教育活動を展開していく。

重点課題

多様な活動によって豊かな感性が培われるので，日常的な活動であってもしっかり見つめ直すことを大切にする。自分自身や他者の気づきをもとに，対話や表現から「新しい価値の創造」や「知識の再構築」が行われるような土壌を創る。コミュニケーションにおける言葉のもつ影響力についての意識を教師自身が高めることで，豊かな表現力や思いやりの心を育む。

学ぶ意義が感じられるように，学ぶ価値のあるものに生徒たちをしっかりと出会わせる。より主体的に学ぶことで，家庭学習が習慣化していくような指導の工夫・改善を図るとともに，教師自身が学び続ける姿勢をしっかりと示す。また，生徒の自治的な意識の高揚を図ることで，自主的な行動を促進していき，生徒の自己有用感や自己成就感をさらに高める。

地域とのつながりを考えるなかで，中学生としてできることを実践していく活動の場を設定したり，地域の情報を適切に提供したりしていく。「相互依存による自立」の意義が実感できるように配慮し，職員の協働体制や職員自身の経験から生徒に伝えるとともに，援助要請や援助の在り方についても機をとらえて生徒に継続指導する。